

第3回気候変動適応中部広域協議会 議事概要

日 時：2020年1月27日（月）13:00～15:30

場 所：TKP 名駅桜通口カンファレンスセンター ホール 3E

出席者：別紙参照

事務局：中部地方環境事務所 環境対策課

1. 開会 挨拶

中部大学福井座長による挨拶

2. 第1部（公開）

①農林水産分野の適応事業について（東海農政局より資料2を説明）

②環境省次年度事業について（環境省適応室より資料3を説明）

③令和元年度分科会の報告・次年度分科会テーマについて

（中部地方環境事務所より資料4を説明）

<質疑・意見交換>

三重大立花氏

農林水産分野の適応事業について、すばらしい内容だが、これで予算が1700万円は少ないように感じる。環境省の次年度事業についても、新規事業が2つあることはすばらしいが、それにしては予算が少ないのではないか。増やすべきだと思うが、検討状況について教えてもらいたい。

東海農政局吉田氏

本省の担当でないと検討の詳細はわからない。環境対策としての予算はこれがすべてというわけではないが、本日紹介した3件についてはこの予算となっている。頂いた質問については内部で共有する。

三重大立花氏

予算を握っている部署に強く訴えてほしい。日本の存亡にかかわる問題である。

環境省高橋氏

将来予測を具体的な適応策にどうつなげていくか、事業の効果が問われている。この額でも財務当局と相当やりとりがあった結

果である。今後とも皆様の協力を得ながら事業の推進を図り、取組の必要性について理解を広く得るとともに、予算の確保に努めていきたい。

刈谷市木下氏

広域アクションプランについて、構成員の自治体以外の自治体にはどう広めていくのか、強制力があるのか、などの見解を聞きたい。

中部地方環境事務所

中部地域は一部の市町村も構成員に入っているが、構成員以外の市町村にどのように落とし込むかは具体的には決まっていない。県から市町村へ広めていただければと考えている。

中部大福井座長

広域アクションプランについては、この後の意見交換会でも議論していただきたい。

長野県浜田氏

広域アクションプランについて、スケジュールを教えてください。また、分科会の内容は資料の3つで決まりか。

中部地方環境事務所

スケジュールは具体的には決まっていない。本日の協議会と意見交換会での意見を考慮しながら、このテーマでよいか検討し、テーマが決まったら来年度から始めていくつもりである。テーマの数については適応室の資料にあるように、分科会はテーマを各地域2から3としている。中部では3テーマと考えている。

地球研／東京大吉田氏

分科会の内容について、分科会3については課題を洗い出していく一方で、分科会1と2はかなり具体的なキーワードが入っている。分科会1は自然環境・生物への影響調査ということだが、環境だけでなく農林水産業にも深くかかわってくる。分科会2は水資源管理だけでなく防災、森林・農地の管理などいろいろな分野が連携しないとうまくいかないのではないか。分科会の中でどのように他分野との連携をとっていくのか、アイデアがあれば教えていただきたい。次に、分科会1と2の位置づけについて、多様な分野が対象になるが、特に自然環境・生物への影響、水資源管理を挙げたのは、中部で全国のモデルになるようなものを作っていきたいからなのか、それとも中部で大事な分野と認識しているからなのか、教えていただきたい。また、内容が専門的

で、自治体でも専門の研究者がいらないとできないのではと思うが、専門家のかかわり方は、研究に具体的に関わっていくのか、アドバイザーとしてなのか、どのようにお考えか。

中部地方環境事務所

広い分野でどう進めていくかは、適応センターを立ち上げていく中で各自治体が直面している問題ではないのかと思う。突破口のひとつとして分科会 3 で全庁を対象としてワークショップを開催することを考えている。次に、分科会 1、2 の位置づけは、全国のモデルになること、中部にとって大事な分野であることの両方あると考えている。中部として生物多様性や水資源は重要なテーマである。専門家については、具体的には決まっていないが、ぜひ積極的に関わっていただきたいと考えている。中部の中の研究者同士のネットワークを通じて、成果を地域にフィードバックしていただければと思っている。

三重大立花氏

気候変動適応は関係者だけで集まっているだけではだめで、市民の大多数の無関心層への普及啓発が極めて重要である。危機意識を市民に持っていただくことが大事であり、これだけでもかなり大きなテーマだと思う。これを分科会にどう組み込むか、分科会 3 あたりが適当ではないかと思う。次に、予測と適応は対になるものである。研究者の関わりは不可欠であるので、ぜひがんばってほしい。

中部地方環境事務所

いただいたアイデアを盛り込んでいきたい。

④石川県の気候変動適応の取組（石川県より資料 5 を説明）

⑤県民参加による気候変動情報収集の取り組み紹介（愛知県より資料 6 を説明）

⑥国民参加による気候変動情報収集・分析事業（三重県より資料 7 を説明）

< 質疑・意見交換 >

名古屋大坪木氏

アンケートや啓発活動はどういう方を対象にするかが気になるところである。愛知県の発表では年代別で 10 代が 8.6% で少なくなっている。気候変動は、若い世代が最も影響をうけるので、この人たちに意識を持ってほしい。若い方にどのように普及啓発をしていくか。環境教育が一番大事との結論に至ったのはとても

よい視点である。環境教育は高校教育では地学にあたると思うが、地学は時間が少ないようだ。

愛知県倉橋氏

今回のアンケートについて 10 代が 10%弱で、主に高校生の世代が中心である。先生の今のご指摘を次年度以降の取組に参考にさせていただくとともに、小学校 3 年から 6 年生あたりに温暖化教育の機会を考えている。次の世代を担う子供たちに適応についても教育を進めていけたらと考えている。

九州大千手氏

三重県では固有の種に注目しているが、なぜこれらに注目したか、これらの調査結果をどう利用するか、教えていただきたい。

三重県樋口氏

気温の上昇や、災害の激甚化といった、全国に共通する事象ではなく、三重県に固有の事象を取り上げたほうが、県民の皆さんが気候変動についてより身近なこととして受け止めてくれると考えた。国の天然記念物に指定されているネコギギという淡水魚がいる。この魚は伊勢湾、三河湾に面した河川にしか生息していない。三重県内には、このネコギギの保護活動を行っている高校があり、校内での繁殖にも成功している。ネコギギは絶滅が危惧されている種であり、この繁殖も適応策の一つであると考えている。河川の改修工事の際、地域住民がネコギギの生息を指摘したことで、工事の工法が変更され、ネコギギが住みやすいようにブロックを入れたこと等をヒアリングで聞いている。同様の取組が広がるよう、調査の結果については、ネコギギが生息する地域や自治体への啓発にもつなげていきたい。
